

第1回 長崎県版下水道場 ～結果報告～

○下水道場とは

- 下水道関係組織においても行政改革に伴う職員採用の抑制や経験豊富な職員の退職等により、技術やノウハウの継承が問題となっている。
- 一方で、事業量の減少や民間への業務委託の増加により、若手職員は自らの組織の業務だけでは十分な知識、情報を得ることが難しい状況となっている。
- このような状況に鑑み、平成24年9月、国土交通省によって、下水道事業の持続的・安定的な運営や一層の発展のため、若手職員同士が交流し、お互いの悩みや検討課題を相互に相談する場として「下水道場」が設立された。

○長崎県版下水道場の設立

- 本県においても同様の問題を抱えており、下水道場を活用して若手下水道職員の育成に努めていきたいが、旅費等の予算の問題から、参加者は少ない状況にある。(H28の下水道場への全国からの登録者112名のうち、本県からは2名のみ)
- また、下水道にかかる県内会議、九州会議は比較的多く開催されているものの、若手職員が参加できる会議は少なく、中堅職員が多くを占めている。



長崎県下水道若手職員のネットワーク形成・スキルアップを図るとともに、今後の長崎県下水道事業の発展を目的として、長崎県版下水道場を設立！

そして今回、第1回長崎県版下水道場（仮称）を以下のとおり開催しました。

○日時：平成28年9月21日（水） 13：30～17：30

○場所：長崎交通産業ビル4階A会議室

○対象：長崎県内下水道若手（概ね35歳以下）職員

○参加：長崎県内12市町（下水道事業実施：16市町）38名

○名称：長崎県下水道場（仮称）

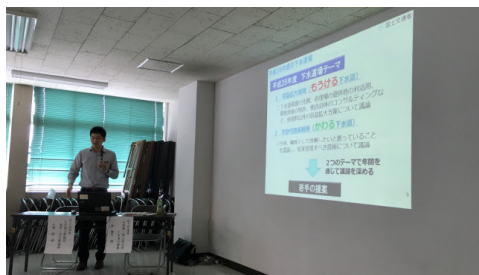
⇒今回、『やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～』に名称決定！

○会次第

- 開会挨拶 長崎県 環境部 水環境対策課長
- ①本省からの情報提供
「下水道若手職員によるネットワーク（下水道場）について」
国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部 下水道企画課 企画調整係長
- ②整備局からの情報提供
「九州における下水道事業」
国土交通省 九州地方整備局 建政部 都市・住宅整備課 下水道係長
- ③グループ討議
議題：「普段の業務において、困っていることや課題等について」
グループ討議（ワールドカフェ方式）／発表／総括・講評（名称の決定）
- ④国土交通省下水道担当職員の方との意見交換

【本省・整備局からの情報提供】

国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部 下水道企画課 企画調整係長より、「下水道若手職員によるネットワーク(下水道場)について」、国土交通省 九州地方整備局 建設部 都市・住宅整備課 下水道係長より、「九州における下水道事業」について、それぞれお話をいただきました。



〔本省による情報提供〕



〔九地整による情報提供〕

【グループ討議】

議題「普段の業務において、困っていることや課題等について」に対する、課題をグループごとに決定し、解決策について討議しました。また、長崎県版下水道場の名称についてもグループごとに選出し、7班の案から多数決で決定しました。

(参考) グループ討議の実施にあたり、以下のとおり工夫しました。

- ・一人ひとりが意見しやすく、自由に活発な議論ができるよう、1グループ約5名の少人数体制とし、7班にわかれて実施。
- ・討議が円滑に進むよう、受講者には事前に議題に対する考えを提出いただき、この情報を基に、普段の業務において同じ悩みを持つ職員や、業務内容(計画・管渠・処理場)が同じ職員が同一のグループとなるようメンバー編成。
- ・グループ内の意見のみで結論を導くのではなく、他のグループの職員からの意見を取り入れ、また多くの参加者と交流することを目的として、ワールドカフェ方式を用いて、会場全体で解決策のブラッシュアップを行った。



〔グループ討議の様子〕



〔発表の様子〕

【グループごとの討議内容】

◎1班〔長崎市(2名)/諫早市/大村市/西海市〕

- 課題：「技術の継承」
- 解決策：各自治体で研修を増やす、異動スパンを長くして技術力を高める、自治体間で交流して技術を高める
- 下水道場名称：羽ばたけ！長崎の「水の天使」たち

◎2班〔長崎市(2名)/佐世保市/大村市/壱岐市/佐々町〕

- 課題：「技術力不足」
- 問題点：ベテラン職員の異動・業務委託増加による若手職員の知識不足、知識不足により料金徴収の際、住民に対しうまく説明ができない
- 解決策：資格を取得し個々のスキルアップ、異動スパンを長くする、他自治体との交流（下水道場の活用）、広域化による合同運営、事務職と技術職の垣根を越えて助け合う
- 下水道場名称：やるばい長崎下水道場

◎3班〔長崎市(3名)/佐世保市/諫早市/大村市〕

- 課題：「技術力の向上」
- 問題点：現場に触れる機会が少ない、専門的な知識不足、他部署が何をしているのかがわからず下水道の全体像が見えない
- 解決策：異動スパンを長くする、業務のマニュアル化、JS研修の活用、現場研修の実施（今後の下水道場に取り入れる）
- 下水道場名称：ながさき下水道場

◎4班〔長崎市(2名)/佐世保市/大村市/時津町〕

- 課題：「下水道管渠施設の老朽化対策」
- 問題点：管の閉塞による逆流、老朽化による不明水流入、点検を行う職員不足、交通量が多い箇所での点検困難
- 解決策：台帳をデータ化しタブレット等持ち運びによる時間短縮、他部署からの応援（合同パトロール）、困難箇所のみピックアップし業務委託
- 下水道場名称：下水道場もってこーい！NAGASAKI

◎5班〔長崎市(2名)/佐世保市/大村市/長与町/東彼杵町〕

- 課題：「下水道工事に伴う迂回路、仮設について」
- 問題点：土地の所有者の確認ができない、住民の協力が得られない
- 解決策：申請者に調べてもらう、自治会長との協力、住民にメリットのある提案
- 下水道場名称：西の和華蘭塾～長崎下水道場～

◎6班〔長崎市(2名)/佐世保市/諫早市/雲仙市〕

- 課題：「水洗化率の向上」
- 問題点：各市町で水洗化率の向上における取り組みは、永遠の課題である
- 解決策：PRにより力を入れる、民間業者との連携、強制執行
- 下水道場名称：バリヨカ

◎7班〔長崎市(2名)/佐世保市/大村市/川棚町〕

- 課題：「下水道に対する住民理解」
- 問題点：下水道を望まないのに負担金を払う必要性、騒音・振動・駐車場の問題、多額の工事費用がかかるなど、住民からの理解が得られない。
- 解決策：広報等で下水道のイメージUP（子供対象の体験学習、パンフレット、SNS、広報誌）を図り、次世代へ向けて下水道を身近に
- 下水道場名称：うみテラス長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～

【長崎県版下水道場の名称決定】

各グループの発表終了後、受講者全員による多数決を行い、2班と7班の案を組合せた形で、『やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～』に決定しました！

【講評】

本省より、「活発に議論が飛び交い、開催趣旨に合う会となったと思う」「今回討議した内容を、次の会や日々の業務の中で具体化し、ステップアップを期待したい」、九地整より、「今回できたネットワークを大切にいただき、よければ全国版下水道場にも参加し、さらに広げてほしい」「今回の取り組みが、今後より発展していくよう国としても応援していきたい」とのコメントをいただきました。

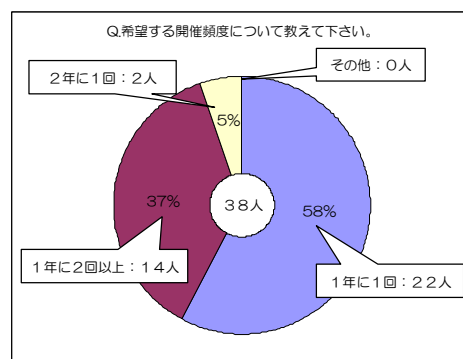
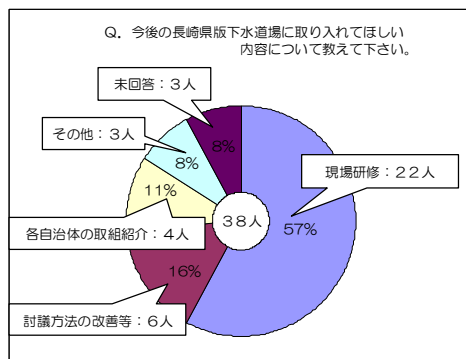
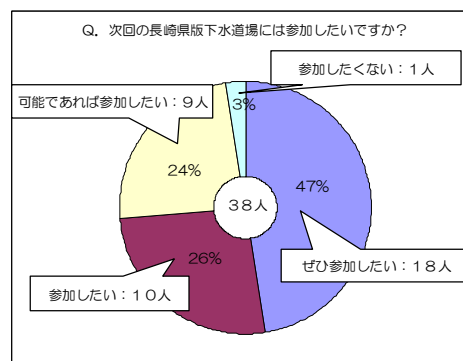
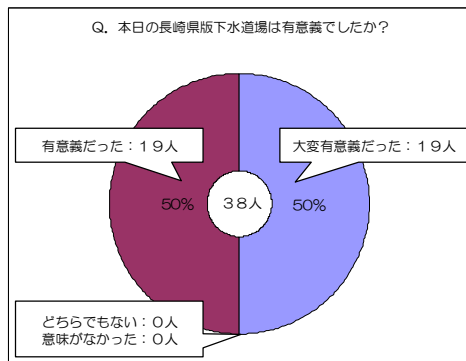
【国土交通省下水道担当職員の方との意見交換】

会の最後に、意見交換の時間を設け、予算の編成の仕組みや、今後の下水道事業、新たな支援メニューなどについての受講者からの質問に対し、講師のお二人よりご回答いただき、第1回長崎県版下水道場を閉幕しました。



〔参加者全体写真〕

【実施後アンケート結果】



その他、感想では「同じ様な悩みを持つ若手同士で意見交換・ネットワーク形成ができてよかった」という回答が多く、受講者全体にとって満足が得られる結果となりました。今回の取り組みが無駄とならないよう、新しく形成されたネットワークを大切に、今後の業務に活用いただければ幸いです。

今後は、アンケートにおいて多く意見が寄せられた「現場研修」を取り入れた形での開催を検討し、引き続き、若手職員の技術力向上に向けて取り組んでいきたいと考えています。